

令和3年3月大東市議会定例会議会

令和3年度  
施政方針要旨

大東市長 東坂 浩一



令和3年3月定例月議会の開会にあたり、提案させて頂きました諸議案のご審議に先立ちまして、令和3年度の市政運営の方針と施策の概要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様、関係機関の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の脅威が今もなお続いており、世界中の多くの方々が苦しめられています。お亡くなりになられた方々のご冥福と、闘病中の皆様の1日も早いご回復を、心よりお祈り申し上げます。

また、感染リスクが伴う環境のもとで、私たちの日常生活を支えてくださっている全ての方々と、感染予防対策にご協力頂いております皆様に改めて深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の中において、本市では、「日常に近づける」、「日常を取り戻す」、「日常を発展させる」という3つのステップと7つのターゲットを定め、国や大阪府が実施する感染対策の隙間を埋める、基礎自治体ならではのきめ細かな感染症対策、生活支援対策、経済対策を実施し続けています。

昨年12月に予防接種法が改正され、全国民にワクチン接種を行うこととなりました。本市では、この喫緊の課題に迅速に対応するため、プロジェクトチームを創設し、現在総力をあげて準備を進めています。一日でも早く安心して接種できる体制を整えるとともに、希望される方々全ての接種が早期に完了するよう、確実にこの取組みを進め、市民の皆様の命と健康を守ってまいります。

未曾有の状況に直面し、苦しみ、迷い、戸惑う日々が続いていますが、苦しい時こそ、お互いを思いやり、一丸となって支え合い、皆でこの難局を乗り越え、1日も早くコロナに打ち克つべく、今後も迅速かつ柔軟な対応を率先して講じてまいります。

また、コロナ禍は人々の意識・行動に変容をもたらし、技術

を大きく進展させました。テレワークにより会社に行かずとも働ける、オンラインにより会場に行かずともイベントに参加できる、など、新しい生活様式が常態化しつつあります。

時代の転換点ともいえる今、市長に就任して以来、掲げ、邁進してきました「あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり」を理念とした、新たな総合計画・総合戦略をとりまとめ、“幸せデザイン 大東”を策定することとし、今定例月議会で提案させて頂いています。市民の皆様お一人おひとりの幸せを追求していくことに焦点を当て、その幸せがまち全体の幸せへと広がっていく、そのようなまちを創り続けてまいります。

昭和31年に「光は東方より」という言葉に飛躍的發展と明るい展望を託して市制を施行した本市は、本年65周年を迎えます。この節目となる年に、飯盛城跡を国史跡指定とするべく準備を進めています。

約450年前に三好長慶公が様々な戦いを経てこの地を選び、困難な局面においても守り、治めたように、私もコロナ禍で混沌としている今のこの難局に対し、果敢に挑戦し、日常を守り、さらには、本市の最東端である飯盛山から日が昇り大東のまちを照らすかのごとく、発展に向けた明るい光で、笑顔あふれる市民の皆様が暮らす大東のまちを照らすことができるよう努めてまいります。

これまで築き上げてきたことに誇りを持ちながらも、たゆみなく改善を重ね、日常の安全・安心、そして確かな幸せを築く、その決意を胸に、力強い一步を踏み出す1年とすることをお誓い申し上げ、令和3年度の主な取組みにつきましてご説明いたします。

最初に、

## ①【危機管理の徹底】

でございます。

自然災害や新型コロナウイルス感染症をはじめとする新たな脅威など、あらゆる有事を念頭に置いた対策が必要です。こ

れまで本市が水と戦い、水を治め、水と親しんできた経験を活かし、多様な力を結集し、大東での暮らしをどこよりも安心できるものに、日々尽力してまいります。

コロナ禍においても災害はいつ発生するかわかりません。防災意識を高めるため、「自らの命は自ら守る」という「自助」の原点に立つとともに、複合災害への対応や日々進展するICTの活用を含めた地域防災計画の改訂を行います。

また、避難時においても、市民の皆様の安全・安心を確かなものとする必要がございます。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、これまでとは異なる対応が必要となることから、指定避難所への防災用ワンタッチ間仕切りの導入を迅速に行ったところです。今後は災害時受援計画を策定し、円滑な応援要請と応援受入れ態勢を整え、避難される方を万全の状態を迎え入れるべく対策を講じてまいります。併せて、土砂災害特別警戒区域の各ご家庭を最優先に、順次戸別受信機を無償で貸与し、防災行政無線の避難情報などを確実にお伝えします。

避難生活の長期化に備える必要もがございます。避難所である各学校の備蓄倉庫をより活用しやすいものとし、災害備蓄品などを計画的に備えるとともに、中学校の体育館に空調機を設置することで、酷暑や極寒のもとでも不安なくお過ごし頂けるよう、避難所としての環境を整備します。

市内公共施設の安全性を確かなものとすることも重要です。現在、維持管理にかかる費用を抑えつつ、より効果的な改修を行っていくことを目的に、大東市小中学校長寿命化計画を策定し、学校施設の機能の向上を図っているところです。今後は、大東市公共施設等総合管理計画を改訂し、施設やインフラの安全性を堅持しながら、快適にご利用頂ける公共施設の運営を行ってまいります。

災害時に最も重要な防災拠点となるのが市役所でございます。大規模災害時においても市民の皆様の安全・安心を守るとともに、ICT活用の積極的な推進により利便性を高めることなどを庁舎整備の方針とする基本構想を現在策定しています。引き続き、検討経過や事業の進捗について、市民の皆様に丁寧

にお知らせしてまいります。

続いて、

②【エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出】  
でございます。

新型コロナウイルスの感染拡大とICT化の進展により、距離の概念や地勢的価値が変化し、自らのまちや近距離で楽しめる場所が改めて関心を集めています。身近な場所を魅力的な都市空間として磨き、発信力を強化することで、本市にお住まいの方はもちろん、近隣地域にお住まいの方、さらにはバーチャルにより遠方の方々にも、大東でしかできない体験や、大東にしかない空間を楽しんで頂けるよう、挑み続けてまいります。

この度、機構改革により教育委員会事務局生涯学習部の一部を市長部局と統合し、産業・文化部を創設いたします。このことにより、学術的な価値の創出と、資源の磨き上げや魅力発信、さらには地域経済の活性化の強みを掛け合わせた相乗効果を生み出してまいります。

近年、織田信長に先立つ天下人である三好長慶公と、安土城に先立つ本格的な石垣づくりの城であった飯盛城は、その研究の進展から、本市がいち早く日本の中心となっていたことが明らかとなり、注目されているところです。この歴史浪漫を感じて頂けるよう、飯盛城跡の保全・活用を図りながら、飯盛城フルCG化やスマートフォンで楽しむスポットARなどにより、広く対外的にPRしていくことを通し、市民の皆様とともに、大東を知り、大東を愛し、大東を誇りに思い、大阪府、日本、世界に、大東の素晴らしさを伝えてまいります。また、訪れる方が快適にお過ごし頂けるよう、環境に配慮したバイオトイレの設置や駐車場整備を行います。

国史跡指定の動きを好機とし、飯盛山につながる龍間地区においても、コミュニティ維持と地域活性化に向けた調査・研究を行います。

本市の玄関口ともいえる住道駅周辺を含め、市内3駅周辺の

エリア価値を高めていくことは、大東全体の印象を変えるものです。

住道駅周辺については、駅前デッキにおいて、大東ズンチャッチャ夜市やストリートピアノイベントなど、民間や有志の方々による様々な企画が広がっています。今後も引き続き、人々が集い楽しめる駅前デッキのさらなる活性化や、末広公園のこれまで以上の活用など、新たな魅力づくりについて研究してまいります。

平成25年から進めてまいりました野崎駅と四条畷駅の整備でございます。

野崎駅周辺については、昨年、駅舎の橋上化と一部自由通路の供用を開始しました。令和3年度には橋上化の完了をめざし、駅の自由通路の増設部の整備などを行います。

計画的に事業を進めている四条畷駅周辺については、駅東側のペDESTリアンデッキなどの整備に着手いたします。

併せて、踏切事故の解消と分断された市街地の一体化などをめざし、JR・大阪府・四條畷市等と連携して研究を深め、鉄道高架化の可能性についての予備調査を実施してまいります。

来月には飯盛園第二住宅の建替を契機とした北条まちづくりプロジェクトによるまちびらきを行います。引き続き、鎌池公園の親水護岸工事などを進め、広場の機能を向上させてまいります。また、北条幼稚園と北条保育所を統合した認定こども園の令和4年度の開設をめざし、保育所の改修工事を進めるなど、今後も、地域の資源を活用しながら、ひと・まち・歴史・自然が豊かに織り成すエリアとして、その価値を高めてまいります。

北条まちづくりプロジェクトをはじめとする「公民連携」手法の経験を活かし、検証と改善を加えながら、従来、公が担ってきた施策や事業の枠組み・スピード・規模などの上限を一気に押し上げ、飛躍させる、市民サービスを展開してまいります。

魅力的な都市空間をつくるには、住まいとその周辺の環境を整えることも重要です。令和元年度に、都市・自然・歴史が共存し、訪れたい、住みたい、住み続けたいと感じるまちの景観

を形成することを目的に、景観条例の制定と景観計画の策定を行いました。令和3年度は重点的に取り組む地区の指定を行い、地域の方々のご協力を頂きながら、景観保全を進めてまいります。

人々が集い、憩い、楽しむ場として日常的に利用する公園は、快適で心地よい空間や、魅力あふれる景観を有することが求められています。そのため、誰もが楽しめる特色ある公園へとリニューアルを図ってまいります。

併せて、より一層良好な住環境の整備を推進し、一人ひとりが安心して暮らせるまちづくりを進められるよう、住宅マスタープランの改訂を行います。

公営住宅の建替や更新は、周辺の道路を含め、住環境の見直しを図る好機です。現在、老朽化が進んでいる市営深野園住宅の建替について検討を進めているところであり、お住まいの方々や地域の皆様のご意見を拝聴しながら、建替に向けた対応を講じてまいります。

府営住宅については、平成30年度から、順次移管を進めており、大阪府から移管された大東深野住宅は、一部住戸を社宅として活用するなど、公営住宅の新たな在り方を研究し続けているところです。今定例月議会におきまして、北新町、南郷、寺川の各住宅の移管に向けた条例改正を提案しています。移管を受けることで、お住まいの方々にわかりやすく、より身近なサービスの提供を図るとともに、3つの住宅の立地特性を活かし、地域ニーズに応じたまちづくりを展開してまいります。

次に、

### ③【健康寿命の延伸】

についてでございます。

本市には約40年にわたる地域リハビリテーションの素地がございます。こうした環境を背景に、一昨年、東京パラリンピック大会に出場するコロンビア共和国のホストタウンに登録され、コロンビア共和国男子車いすバスケットボール代表チ

ームの選手とオンライン交流事業を行っています。これを契機とし、全世代の健康づくり・スポーツに対する意識を一層高めてまいります。併せて、障害のあるなしや、互いの文化、価値観の違いを個性と認識し、多様性を認め合い、誰もが個性と能力を遺憾なく発揮できる、誰もが住みやすい「心のバリアフリー」のまちづくりを引き続き推進してまいります。この考え方は、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を理念とするSDGs（エスディーゼーズ）につながるとともに、本市が推進している「人権尊重のまちづくり」にも通じるものです。

人生100年時代といわれる今、誰もが生きがいや楽しみを見つけられるよう、健康寿命の延伸にも取り組んでまいります。年齢に関わらず、身体状況や生活状況に応じて活躍できる場や交流できる場を創出し、様々な形で誰もが社会に参画できる機会を充実させてまいります。

長寿社会においては、国や大阪府と常に情報を共有し、連携しながら、関係機関が一丸となり、安心して介護を受けられる体制づくりを進めていくことが重要です。就労的活動支援コーディネーターによる人材確保対策の実施や、地域包括支援センターの相談・支援体制の強化により、介護が必要な方やそのご家族の不安の軽減を図ります。ひきこもりの高齢化が社会問題となっていることから、生活苦に陥らないよう、また自立へつなげられるよう、中高年の方への相談・訪問支援や居場所づくりなどの生活困窮者自立支援を充実いたします。

続いて、

#### ④【確かな学力の向上と教育環境の充実】

についてでございます。

私は市長就任以来、「まちづくりは人づくりであり、人づくりは教育から始まる」という信念を基に、教育行政を進めています。

現在、教育委員会と連携しながら、大東市教育大綱の改訂に

取り組んでおり、大詰めを迎えています。

大東市ならではの彩り豊かな教育機会の創出によって学びの個別最適化を図り、誰一人取り残すことなく、一人ひとりの学ぶ意欲を喚起したいと考えています。

大東市教育大綱では、引き続き、学力の向上に取り組んでまいります。

私は、学校教育の根幹は、魅力あふれる教職員による質の高い授業にあると考えています。教職員の指導力の一層の強化を図るため、授業改善に向けた研究体制を充実させてまいります。

去年は新型コロナウイルス感染拡大を受け、G I G Aスクール構想が早期に実現することとなりました。G I G Aスクール構想とは、これまでの教育実践の蓄積と最先端のI C Tのベストミックスにより、児童生徒の資質・能力を一層確実に育成する教育環境を充実させるものであり、本市におきましても4月からの本格的な活用開始をめざし、順次端末の導入を進めているところです。S o c i e t y 5 . 0時代を生きる子どもたちにとって、I C Tの積極的な活用は教育の可能性をさらに広げるものです。G I G Aスクール構想の実現によるI C T教育の推進に加え、I C Tを活用した本市独自の多様なメニューを備えた新たな学びの選択肢についても研究を深めてまいります。

児童・生徒が関わる社会は、学校と家庭のみに留まりません。これまで以上に地域の皆様に信頼される学校づくりを実現するため、コミュニティ・スクールを導入し、地域と学校との連携を強化してまいります。

これまで先進的に取り組んできた家庭教育支援については、学校と家庭、地域の皆様の連携・協働をさらに強め、保護者が気軽に集える場所の提供など、親子の育ちを応援します。さらに、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等とも協力し、まち全体で「徹底的家庭応援」の体制を整え、将来の大東市を担う子どもたちを守り、育んでまいります。

これらの取組みを着実に推進するため、教育委員会事務局においては、4月より大きく組織を改編し、実行体制を強化します。さらなる教育環境の充実をめざし、今後も教育委員会と力

を合わせてまいります。

次に、

#### ⑤【出産や子育ての安心と魅力の創出】

についてでございます。

我が国における少子化の進行と相まって、本市においても出生数は減少傾向にあります。このことは、現在、そして未来に大きな影響を与えるものであり、深く憂慮しています。

本市では、これまで子育て世代の流入・定住促進の施策を積極的に講じてまいりましたが、これに加え、今後は、出産の希望の実現についても、個々の価値観に寄り添い、支援してまいります。

出産・子育ての希望の実現や流入・定住の促進に向けては、性別による家庭での役割分担意識の払拭、誰もが仕事と家庭を両立できる働きやすい環境づくり、子育てに対する経済的負担への不安の軽減、地域全体で子どもを守り育てる風土醸成など、行政、個人、ご家庭、企業、地域など、社会全体で出産や子育てに安心と魅力を感じて頂けるような環境づくりに取り組んでいかなければなりません。

出産や子育てには大きな喜びを感じる一方で、不安も伴うものです。

妊娠から18歳までの切れ目のない支援を行う拠点である「ネウボランドだいとう」では、保健医療を含む福祉と教育の分野の連携をより強化し、相談や支援体制の充実を図ります。

見守り見守られる安心の暮らしの実現をめざした三世代家族推進事業については、要件を見直し、より市外からの子育て世帯の転入を促す制度といたします。さらに、市外に暮らす子育て世代の方々が本市の空家を購入し、リフォームする際の支援として、空家リフォーム制度を創設します。

近年、増加傾向にある児童虐待については、家庭児童相談業務システムを構築し、本市と教育委員会、児童相談所、国との連携を強化してまいります。

出産や子育ての希望を実現するには、「仕事か子育てか」ではなく、「仕事も子育ても」当たり前前に両立できる社会にしなければなりません。保育ニーズの地域偏在を解消するため住道駅近くに送迎保育ステーションを設置したことや、民間保育園に定員を増員して頂いたことなどにより、平成30年度以降、4月1日時点での待機児童はゼロを維持しています。今後はコロナ禍で一層多様化した働き方を踏まえ、民間事業者のご協力を仰ぎながら、テレワークの導入や、コワーキングスペースの設置など、個人のライフスタイルに応じた、仕事と子育てが両立できる環境を構築してまいります。

「子育てするなら、大都市よりも大東市。」のブランドメッセージのもと、大東市に住めば、妊娠前から子どもが巣立っていくまで、様々な方とつながりができ、地域で安心して充実した子育てを行うことができる、と行って頂けるような取組みに、今後も挑戦してまいります。

続いて、

## ⑥【チャレンジする人と産業の後押し】

についてでございます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けている一つが民間企業等であり、これまでも持続化給付金をはじめ、国や大阪府、そして本市も様々な対策を講じてきたところでございます。今後も継続して、市内経済の円滑な循環と活性化に資する対策を講じてまいります。

本市の強みの一つは、ものづくり産業の集積です。今後はそのポテンシャルを活かしながらも、コロナ禍やICT化の進展など、社会情勢や時代の変化に対応しうる柔軟性と強靭性を備えた産業基盤の構築を図るべく、既存の考え方に捉われない新技術へのチャレンジ支援や、非製造業も含めた産業誘致を通じ、ものづくり産業とそれ以外の産業が、重層的かつ相乗的に地域経済を支えるまちを築いてまいりたいと考えています。

まずは、テレワークやオンライン会議の導入など、ICTの

活用を支援する市内企業デジタルトランスフォーメーション推進事業に取り組みます。この取り組みは、働く意欲を持つ子育て世代の多様な就労の環境づくりや支援にもつながるものと考えています。

企業が柔軟性や強靭性を備えるために必要なことは、ICT化だけではありません。やはり“人”あってこそその企業です。本市では、小学生から中学・高校・大学生と、途切れることなく市内企業に触れることができる機会や、企業の従業員が大阪産業大学の授業を受け業務に活かすことのできる機会の提供など、産学官で連携した取り組みを行っています。

今後は、個々の企業が培ってきたノウハウや人材、設備機能などを持ち寄り、融合させる大東版ブロックチェーンの仕組みを作っていくことが大切だと考えています。商工会議所や大学が持つポテンシャルを活かし、複数の企業が互いに補完したり、新たな発想を加えたりしながら、個々の企業では成し得なかったことに、結集力を持って、対応できるよう挑戦してまいります。

最後に、これら6つの重点分野を下支えする

### **【行政サービス改革】**

についてでございます。

まちの活性化に民間の活動は欠かせません。多様化する市民ニーズに対応するには、本市に関わるすべての方が、それぞれの垣根を越え、協力して進まねばなりません。この「公民連携」により、公の担う範囲を超えた質の高いサービスを市民の皆様に提供することや、地域内で経済を循環させ、新たな雇用や事業を生み出すことが可能となります。

本市では以前から、公民連携ロングリストや民間提案制度などにより、市の有する資源を民間の皆様からの自由な発想で自立的に活用して頂いています。これまでの取り組みによって着実に根付いてきた公民連携の土台は、このコロナ禍においてもその力を大いに発揮するところとなり、民間の皆様からのアイデアや

技術力を活かしたご提案を、様々な対策につなげることができました。今後も、民間の力を市民サービスに活かすとともに、民間の皆様のご活動においては、行政はそれを妨げることなく、状況を把握し、支援し、推進させてまいります。このことにより、民間の力が存分に発揮され、民間と行政が協奏曲を奏でるかのごとく、互いに連携・協調しながら、力強い大東市を築いてまいります。

また、国においてはデジタル庁の発足が決まり、「国と自治体のシステムの統一」などが打ち出されています。本市においても「マイナンバーカードの普及促進」や「行政手続きのオンライン化」に早急に対応し、デジタル化を強力に推進する必要があります。

国のデジタル専門人材派遣制度を活用し、本市行政運営の総合的なデジタル化を進めるほか、令和元年度から導入したRPAを拡充するなど、さらなる業務効率化を図り、ICTでは処理できない分野に職員を配置することで、市民サービスの向上につなげてまいります。また併せて、本庁舎をはじめとした市内公共施設のWi-Fi環境とそれに伴う端末の整備を早急に行い、ICT化に対応した環境を整えてまいります。

少子高齢化の進展に加え、老朽化したインフラの更新や新型コロナウイルス感染症の影響により、財政状況がより厳しくなっています。将来の財政状況を見据え、施策の優先順位を明確に定めた上で、ふるさと振興基金などを効果的に活用しながら、新しい事業に積極的に取り掛かる一方で、既存の事業については不断の見直しを行い、歳入の増加と徹底した歳出の削減に取り組んでまいります。

## 【むすびに】

日常生活を奪った新型コロナウイルスの発生・蔓延から約1年が経過しました。この状況の中で、皆様も様々なことを感じになられたと思います。

私はまず、「日常の大切さ」を痛感いたしました。これまで意識していなかった日常や平凡、無事といったことが、とても大

切で全力で守らねばならないものであるということに、改めて心の底から気づかされました。外出自粛により、帰省して家族と同じ空間で過ごすことはかなわず、入院生活を送る家族や友人の顔を見ることもかなわず、一生に一度の出産に立ち会うことがかなわなかった方も多くいらっしゃったことと思います。

当たり前だと思われていた日常は、決して当たり前ではありませんでした。今まで当たり前のように過ごしてきた空間や、人との語らいがいかに特別で、貴重で、大事なものであるかということのをこれまで以上に、深く、強く、心に刻んだ次第です。

また、現実と仮想に隔たりがなくなり、新たな価値観や選択肢ができたのではないかと感じました。オンラインで気軽に遠方の友人と会うことや、インターネットで買い物をする機会が増えました。その一方、直接会ってコミュニケーションを取ることの大切さにも気づきました。

コロナ禍で学び得たこの「気づき」を糧とし、社会全体で巻き起こるパラダイムシフトをしっかりと見極め、新たな価値を創出させつつも、多様化する選択肢の中から必要な情報を選び取り、それを自らの価値観に応じて掛け合わせ、それぞれの幸せを創っていくことが大切であり、その一つ一つの積み重ねが一人ひとりの幸せにつながっていくものと考えています。

そのような中でも、出産や子育ては幸せそのものであるべきです。

仕事、趣味などを極めようと努力することに幸せを感じる方もいれば、新しいことへの挑戦に幸せを感じる方もいるでしょう。

飾ることなく、自分らしくいられることに幸せを感じる方もいれば、誰かとつながっている喜びと安心に幸せを感じる方もいるかもしれません。

私は市民の皆様の様々な幸せを全力で支え、応援する決意です。

幸せを応援するイベントとして冬に開催しているスマイルミネーションは、私が市民の皆様の「幸せ」と「笑顔」の輪が生まれることを願い、実施しているものであり、その中でもス

マイルウェディングでは、結婚される方やご親族の方はもとより、立ち会われた方、訪れた方、偶然通りかかった方の誰もが幸せで満たされる、そのような幸せの連鎖の拡がりをめざしています。

お一人おひとりの「幸せ」が家族や友人や地域の人たちに、家族や友人や地域の人たちの「幸せ」が大東のまちに、大東のまちの「幸せ」がお一人おひとりの「幸せ」に、この幸せの連鎖とその拡がりこそが“幸せデザイン 大東”です。

まずは、コロナ禍の今をしっかりと見据え、市民の皆様の幸せの実現に向け、“幸せデザイン 大東”を推進し、一步一步着実に力強く、地道に地道に歩んでいく1年としてまいりたい所存です。

最後に、市議会議員の皆様、市民の皆様、関係機関の皆様のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、私の施政方針とさせていただきます。



印刷物番号
2-99